

原発がこわい女たちの会

<http://blog.zaq.ne.jp/g-kowai-wakayama/>

《 2012年09月 | トップ | 2012年11月 》

検索

2012年10月31日(水)

検索

講演会「福島原発事故の今を生きる」開きました

アーカイブ



10月28日、「原発がこわい女たちの会」では、講演会「福島原発事故の今を生きる」を開催した。福島から招いた被災者・橋柳子さんの語りに、参加者一同しんとして聞き入った。また会場には、福島から和歌山へ避難されている3名の方も参加されていた。橋さんと対面され、あとで補足や討論にも加わっていただくことができた。

いま被災地が直面する状況を知り、大きな課題が山積していることを考えさせられる集まりになった。ここでは、とくに印象深かったことを2,3あげてみる。

☆ 事故前まで住んでおられた浪江町は、住民が原発に反対し「建てさせなかった」自治体。そのためか、当初、避難誘導の放送やバス手配など避難支援は、立地自治体と較べても不徹底だったという。しかし原発があろうがなかろうが事故の被害は無差別に襲ってくる（——その点は日本全国、世界、共通だ）。町内に降りそそいだセシウム線量は、国のモニタリングでも最大規模。どうにもならないほど汚染されてしまった。なんとしても故郷に帰りたいと願う人もいるが、自分は「いくら除染しても、もう、帰れるとは思ってない」と正直に話された。それは、あきらめというよりは、国や東電の仕打ちを許さないという意思の表れのように感じられた。

☆ 除染と補償、福島の今を語るときのキーワードといえるが、この二つは被災者の方々にとって必要なものではあるが、じつに眉ツバものであるということがよく分かった。東電からの補償金によって「(事故のことなどふっとんで、)あの家は月々〇十万円もらっている！」が専らの関心事になろうとしている…との嘆きも然り。補償額は避難区域の内と外で大差があり、まさに「差別と分断」。働きたくとも職場がない、耕せる田畑もなくなった。「金よりも、以前の安心して暮らせるふるさとを、人間らしいふつうの暮らしを返して！」というのが被災者の本心であろう。

☆ 事故の後は何もしたくない閉じこもりのうつ状態をすごされたという橋さん。「人間って、いやなものは忘れたい、思い出したくないと思ってしまいがちだが、決して忘れてはいけなことがある」、と言明された。福島第一原発事故を風化させてはならない、だから、もし自分の話を聞きたいという要望があればどこへでも飛んでいきます、と仰ってくださった橋さん。先の見えない不安と闘いながらも、人間としてのつながりを糧に、福島の今を生きておられる。そのお気持ちに、私たちみんなが応えていかなければと思った。

(sora)

2016年11月 (2)
2016年10月 (1)
2016年09月 (1)
2016年08月 (2)
2016年07月 (4)
2016年06月 (2)
2016年05月 (1)
2016年04月 (3)
2016年03月 (2)
2016年02月 (3)
2016年01月 (2)
2015年12月 (4)
2015年11月 (2)
2015年10月 (1)
2015年09月 (3)
2015年08月 (3)
2015年07月 (2)
2015年06月 (2)
2015年05月 (2)
2015年04月 (2)
2015年03月 (2)
2015年02月 (2)
2015年01月 (5)
2014年12月 (3)
2014年11月 (2)
2014年10月 (2)
2014年09月 (2)
2014年08月 (1)
2014年07月 (2)
2014年06月 (1)
2014年05月 (3)
2014年04月 (4)
2014年03月 (3)
2014年02月 (1)
2014年01月 (3)
2013年12月 (4)
2013年11月 (1)
2013年10月 (3)
2013年09月 (5)
2013年08月 (1)
2013年07月 (3)
2013年06月 (5)
2013年05月 (3)
2013年04月 (2)
2013年03月 (6)
2013年02月 (2)
2013年01月 (3)
2012年12月 (2)
2012年11月 (1)
2012年10月 (2)

~~~~~

当日参加者に講演会への感想を記していただいた。以下、いくつか(全て載せたいが紙数の都合もあるので)、紹介する。なお、一部に省略や改変あり。

● 東電は、被災者を分断して、もの言わないようにする。もの言わない状況を作って、福島原発再稼働の機を狙っていることが良く分かった。福島から避難された人の、金で心を買われている又はがまんさせられている現実的な話は、身につまされた(重さを感じた)。「和歌山は原発のない良いところ。住民はじめ多くの人が進んで来たから」と橘さんは述べていたのが印象的。しかしそれで終わった訳ではない。関電は住民にたくみに言い寄って核廃棄物中間貯蔵庫の建設を画策していると思わなければならない。(以下略)

● 大爆発事故以来、同時代にこのようなことがおきていることが信じられないまま日々が経ちつづけてきました。マスコミ報道をみてもほとんど報じられていません。しかし、今日のお話をうかがい、まさしくおきていることを実感し、息が詰まるのみです。(以下略)

● “二度の棄民”という言葉が重く印象的であった。事故が起きた時の行政の障がい者や老人への対応、また企業(東電)による市町村への差別的対応などは、平時であれば大きな人権問題、また差別問題であると思う。これが事故時では、平然と行われるのであると知り、ゾッとした。

● 全国に放射能はちらばっている。浪江町に原発はなかったが、事故が起きると「自分の町にはなかったのに」とは言ってもらえない。和歌山も同じ。皆が真剣に考えねばならないとつくづく感じました。

● チェルノブイリ取材した人が、あと1000年はこの地に住めないと言っていました。福島県にまだまだ支援は必要です。どんなにか苦しい思いをされているか、ただ傍観しているだけでは…。(中略)原発がこわい女たちの会に長年加入していて、やっと近所の人々に話せるようになりました。これから勉強して行こうと思います。

● 浪江町の3/11～3/20頃までの住民の具体的な動きなどを聞かせて頂いた。住民自身の判断で行動していたことが確認できた。ヨウ素剤の配布がなされない理由を「副作用が怖いから」と説明されたとか。町行政の職員は一体何をしていたのか、町民が被ばくさせられるだけの行政でしかなかったのか。本来は一刻も早く避難させるべきなのに、(今も)高濃度放射能汚染地区で住まわせている。正に人体実験であり、その意味で世界の注目が集まっている。(中略)棄民政策の代表的なものは、沖縄と福島だ。沖縄は県民の安全の為に全県民が立ち上がっている。福島は何故怒らないのか？県民の安全を何故守らない？

● 経済優先でいろいろな疑問があっても目を向けてこなかった。反省をし、今日も講演を聴かせていただこうと来しました。福島の方の、“今、何をしたいのか分からないから沈黙している”という苦しさも理解できます。

● 現在、仮設に住んでいらっしゃる当事者のお話を生の声で初めてお聞きしました。自分の想像力のなさにあざれています。もっとお聞きしたいというのが本音です。私にできることをもっと考えていきます。

● 橘さん、貴重な体験談(失礼と思いますが)ありがとうございました。東北の大災害・福島原発事故、忘れてはいけない事ですし関心をもっています。これから何かできないか考えていこうと思います。

~~~~~

そもそも、講師の橘さんとのつながりは、「女たちの会」会員の古田伊公子さんを介してである。その記事は、女たちの会ニュース82号に載せたが、ブログにも再録しておく。

「橘柳子さんとの出会い」

月刊「むすぶ」は3.11以降は特に福島原発特集が今も続いていて―。その一つの手記に自分を重ね。迷いに迷った挙句、どうしても思いで手紙を書き、発行元のロシナンテ社に転送依頼。それから橘柳子さんと文通が始まって、脱原発仲間としてお友達に。

テレビ等では復興に向けてと、1年半も経つてくると、明るい話題を流しがちですが、とるものもとりにあえず、ご自宅を後にして、そのまま帰ることも出来ず、町の再生もままならぬまま、波板トタン屋根の応急仮設住宅住まいを余儀なくされ、寒い冬、暑い夏をそれぞれ2回も越さねばならぬ暮らし。放射能を大気へ海へたれ流し続けるのか。多くの作業員の方々の犠牲の上にも、尚 方策のないまま“除染”でごまかし、子どもたちまで住まわせている日本という国は、日本国民の一人である自分を含めて情けない。せめて総理大臣は世界に向って一度はあやまって欲しい。

アメリカ西海岸にいいよ多くの“ガレキ”が流れているようですし、放射能

2012年09月(2)
2012年08月(2)
2012年07月(4)
2012年06月(4)
2012年05月(3)
2012年04月(1)
2012年03月(1)

最新コメント

[日韓の原発事情、国 by 民
守 正義(08/21)
そもそも、我が国歌 by 清水俊幸(07/25)
コメントありがとう by sora
(12/05)
突然すみません。東京 by
里美(11/22)
10/26と11/29のチケット by 角
谷(10/23)
starさんコメントあり by sora
(09/14)
このブログを読むまで by
star(09/13)
こんにちは。メッセ by わん
こ(04/15)
現在稼働している大飯 by
star(04/09)
廃炉産業を起こしてほ by
kaziwarayosiyuki(03/14)

カレンダー

< 2012年10月		>			
日	月	火	水	木	金
	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29
30	31				

最新記事

琵琶湖が危ない 老朽原発
美浜3号も廃炉に！ 11・13
琵琶湖集会(11/15)
汐見文隆先生、ありがとうございました(11/08)
原発がこわい女たちの会
ニュース99号発行(10/12)
高速増殖炉もんじゅ廃炉へ
(09/27)
老朽原発・美浜3号機は廃炉
に！パブコメを出そう(08/28)
ピースボートで韓国古里(コ
リ)原発を見学してきました
(08/21)
熊本地震の経験から原発の
耐震性見直しを要求し、25
団体で共同声明を出しまし
た(07/22)
老朽原発・関西広域連合へ
要望書と和歌山県との話し
合い(07/17)
原発のない社会を投票で示
そう！(07/05)

による被害もこれから深刻さを増すのは「チェルノブイリ」で立証済み。食生活、保養などで免疫力を高め、少しでもリスクを回避する方法も同時に検証、実践されてもいるようですが。
細くても長—く福島に目を向けつつ自分の暮らしも見つめ直していこうと思っています。

(古田伊公子)

2012-10-31 | 記事へ | コメント(1) |

2012年10月09日(火)

講演会「一福島からの証言一福島原発事故の今を生きる」のお知らせ

(演題及び連絡先を加筆修正しました…10/15管理人)

本ブログ前々号でも載せていますが、重ねてお知らせします。お近くの方はぜひご参加ください。

一福島からの証言一福島原発事故の今を生きる

2011年3月の東日本大震災に端を発した東京電力福島第一原発事故から「一年半」が過ぎました。福島県では、いまだ16万人の方が、放射能汚染を避けて県外や県内各地に避難され、また多くの方は不安を抱えながら避難しないで地元に残っていらっしゃいます。いずれにしても、それぞれに抱える苦難は並み大抵なものではないでしょう。

それらの情報について私たちは、TVや新聞、ネット上からも大量に見聞することはできます。もっといいのは、現地にでかけて目の当たりに体験してみること、とは思いつつなかなか果せないでいます。そこで、いま現に福島に暮らす被災者の方をお招きし、当事者からみた福島からの生の声を直かにお聞きする機会をもちたいと考えました。いま、福島ではどのような状況なのか、健康被害は、家族は、仕事は、住まいは、食べ物、学校は、インフラは、…当事者から震災と避難生活について証言していただき、原発事故の現実についての認識を深めたいと思います。そして、被災された方々の思いを受けとめ、いま私たちにできること、心しておきたいことは何かを学び、これからどうなのかどうしたらいいのか、私たちに突きつけられていることを考え、そこに向けて一歩でも進んでいけたらいいなと、思います。

~~~~~

- 講師・橘 柳子さん
- 日時・10月28日(日)13:00~16:00
- 場所・あいあいセンター 4階6・7会議室  
和歌山市小人町 TEL:073-431-5246  
<http://www.city.wakayama.wakayama.jp/bunka-sisetu/fukusi/index.html>
- 参加協力費・500円
- 主催・原発がこわい女たちの会 (連絡先 073-451-5960 松浦)

- ◎ 橘 柳子(たちばな りゅうこ)さん;  
1939年旧満州大連生まれ。  
長らく福島県で教師(英語)として勤務。  
県教職組合専従活動を経て2000年定年退職。  
震災時は浪江町在住でしたが、転々と避難して現在10か所目の  
福島県本宮市の仮設住宅住まいをされています。

2012-10-09 | 記事へ | コメント(0) |

原発がこわい女たちの会  
ニュース98号発行(07/04)

SCHEDULER

ナビゲーション

トップ

RSS

ID:

PASS:

サイト管理者 ▼

ログイン

SSLモードでログイン

BLOGariは2017年1月末  
サービス終了します

RSS 2.0